

CASE STUDY

ひとづとからわがごとへ 島根県のわかもの主体のNPO法人 KEYSの取り組み

特定非営利活動法人KEYS事務局長 藤原睦己

1. はじめに

特定非営利活動法人KEYS（以下、KEYS）は島根県松江市の湖南中学校区を拠点に活動するNPO法人です。湖南中学校区は松江市の南西に位置し、幼稚園から大学までの多くの教育機関が存在しています。また、田和山遺跡などの歴史的建造物も残され、大谷ダムや千本ダムといった水源のある、自然に囲まれた豊かな文教のまちです。

KEYSはそのような湖南中学校区にある松江市立湖南中学校を卒業した高校生を中心に、令和2年に設立されたNPO法人です。島根県ではふるさと教育をはじめとして、小中学生が地域の「ひと」「もの」「こと」を学び、地域に参画する活動が地区単位で活発

に行われています。ですが、設立当時はせっかく小中学校で醸成されてきた地域との関係が、高校生になると希薄になってしまおうという問題がありました。「それではもったいない」、「地域とのつながりをさらに深めて自分たちを育ててくれた地域に恩返しをしたい!」という想いを抱く高校生たちがKEYSを設立しました。

そのような背景から、目的として「湖南中学校区で中高生による主体的な社会貢献活動を継続して行うことで、青少年の健全な成長や地域社会の繋がりの活性化に寄与すること」を設定し日々活動しています。現在は松江市内8校の高校・高専に通う20名の高校生・高専生たちが所属しています。

2. これまでの主な取り組み

（1）高校生による後輩への学校プレゼン《未来リユニオン》

KEYSを設立した令和2年は新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた最初の年でした。なかなか活動もしづらい時世でしたが、そのような状況下で当時の湖南中学校の校長先生から「コロナの影響で高校のオープンスクールが中止になったり、時間が取れなかったりしてゆつくり進路について考える事が難しい」という相談を受けました。そこで後輩のために、高校生たちが自分たちの学校を中学生に紹介し、自由に交流する場《未来リユニオン》を開催しました。このイベントの目玉は高校生からの学校紹介の後の車座トークタイムです。



藤原 睦己

（ふじはら むつき）

平成16年生まれ。令和2年に高校生主体のNPO法人KEYSを設立し令和4年3月まで理事長を務める。令和4

年4月からは事務局長として高校生の活動をサポートしながら自らも公民館活動などに取り組む。島根大学法文学部法経学科2回生。島根県青少年育成アドバイザーや松江市立湖南中学校学校運営協議会委員、乃木地区青少年育成協議会理事を務める。

各高校がブースに分かれ、中学生は興味のある学校のブースに行き、自由に質問します。同じ中学校で在学期間も被っているので、部活動などで知っている先輩がいるという場合も多く、「どんな勉強しているの?」「こんなワークを使っている?」「先輩後輩関係って厳しいの?」「そんなことないよ!部活終わりに先輩と購買に行つて……」など先生方による学校説明会よりも、学校に通わなければ分からないようなディープな情報が飛び交いました。

令和2年に始まった未来リユニオンは恒例となり、中学生として参加していた子が高校生として後輩のために伝える立場になるまでになりました。

(2) 中学生・高校生・地域の大人で考える『地域リーダー育成研修会』

湖南中学校区では、毎年1月に中学



各高校のブースに分かれて質問タイム



未来リユニオンでの学校紹介

2年生を対象として、地区青少年育成協議会とKEYSによる地域リーダー育成研修会が開催されています。この研修会は4月から最高学年として学校や地域を引っ張るリーダーとしての力を養ってもらうため、中学生・高校生・地域の大人の三者が一緒になって、「自分たちが住む地域について考えてみよう」というものです。

研修会では簡単なアイスブレイクの後にグループに分かれてそれぞれの立場から自分たちの地域の現状、それに対してできることや、やってみようことを挙げていくグループワークをします。特に地域の大人の方々は、自治会連合会や交通安全対策協議会といった様々な分野から参加されているので、幅広いアイデアが出されます。このグループワークの中でKEYSの高校生はファシリテーターとして中学生のアイデアを引き出したり、つつい熱くなってしまう地域の大人を諫めたりと、中学生と地域の大人の橋渡し役を担います。このようなグループワークの中での関わりが相互作用を引き起こし、地域での新たなアクションのきっかけを創るようになりました。

しかし、KEYSだけで当日いきなりグループワークを成功させることは至難の業です。そのため、準備の段階でグループワークの内容を

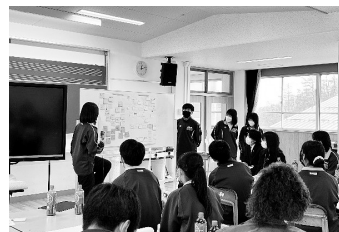
考えた後、松江市教育委員会の派遣社会教育主事の先生方のアドバイスを頂きながら実際に自分たちで模擬研修を行い、当日に向けてスキルアップを目指します。「グループワークではどの手法がもつともテーマと合致するか」「ファシリテーターとしてどういった点に気を付ければ良いのか」など専門的な助言から、考えた内容をブラッシュアップし



事前の研修の様子



議論をファシリテートする高校生



グループワークの成果を発表する中学生



地域魅力化プログラム

ていきます。また、内容の構成にあたっては、島根県社会教育研修センター作成のしまね学習支援プログラムのひとつ、「地域魅力化プログラム」を活用し、自分たちの地域の実情やニーズに合わせた内容を考えています。

（３）実際にアクションを起こす！《こなんフェスタ》

前述のリーダー育成研修会で出されたアイデアを受けて、実際にアクションを起こす場となるのが「こなんフェスタ」です。リーダー育成研修会に参加した生徒を中心に実行委員会を立ち上げ、地域のためにできることとして出された意見の中から中学生がやってみたいものを企画し、こなんフェスタとして開催します。実行委員会とKEYS、青少年育成協議会がタッグを組み、学校やPTAなど多くの団体を巻き込んで開催します。第1回目となっ

た昨年は「コロナ禍で関われなかった地域の人たちともっと関わりたい！」という意見をもとに、小学生から70代までが集う「風船バレー大会」と「こなんワールドカフェ」を二部構成で、湖南中学校を会場に11月に開催しました。

企画段階では「様々な地域の方々と関わりたい！」という意見が出され、地域からは小学生のお子さんを持つ女性学級のお母さん、日々見守り活動される交通指導員の方など、これまでに類を見ない幅広い層の方々に20名近くお出かけいただきました。

第一部の風船バレー大会では、中学生と高校生、地域の大人で作る混合チーム対抗の風船バレーを行いました。最初は緊張感が会場の体育館を覆っていましたが、試合が進むにつれ歓声や掛け声が聞こえるようになり、大いに盛り上がりました。

第二部では、風船バレーで盛り上がった雰囲気のまま「こなんワールドカフェ」を行いました。飲み物とお菓子を手にしながら、ホスト役の実行委員の進行で楽しいおしゃべりタイムになりました。部活動を引退して受験に向かう三年生の参加者にとって関心事の高校生活

や職業選択などのまじめな話題に、好きな歌手やタレントの話など幅広いお話をざっくばらんにすることができました。

終了後、参加された方からは「小学生の息子にも実行委員の中学生のお兄さんお姉さんが優しくしてくれて、中学校進学への不安が和らいだ」、「今どきの中学生が何に興味を持っているか知ることができたので、見守り活動の中で話すきっかけができた」などの声だけでは終わらない効果が見られました。また、

実行委員の中学生からも「地域の大人たちと関わるのってこんなに楽しいって知らなかった！」「卒業しても地域と関われるようにKEYSに入りたい」などの声が聞かれ、地域と中学生がお互いを知る機会になりました。ま



盛り上がりを見せる風船バレー



こなんワールドカフェ

た、実行委員の中学生たちにとっては、地域でリーダーとして行事の企画をし、他者を巻き込むというリーダー育成研修会で学んだことを発揮する場としても大きな意義を持ちます。

3. KEYSと地域・行政との関わり

これまで述べた通り、KEYSの活動は様々な方々に支えてもらいながら展開されています。ここからはその関わりと今後の展望について紹介します。

(1) 公民館

湖南中学校区には乃木公民館と忌部公民館という2つの公民館があります。この公民館という地域の拠点がKEYSの活動における鍵になっています。KEYS設立に際しては、公民館の館長さんや職員さんから多くのアドバイスを頂きました。設立後も地域の諸団体とのマッチングや地域活動に対してのアドバイスなどを頂いています。日々の活動の中で、松江市の公民館が青少年のような若い人たちも含めたすべての人に開かれた学習拠点であることに喜びとありがたみを感じています。

(2) 県や市の社会教育行政との関わり

島根県の社会教育は本誌、社会教育

2023年1月号でも特集された通り非常に活発です。県教育庁社会教育課や松江市教育委員会、東部社会教育研修センターといった多くの機関の先生方から、分掌に合わせてアドバイスを頂いております。これは島根県社会教育行政が公民館と同じように広く開かれているからこそだと考えます。行政は堅苦しい、という一般的なイメージがありますがまったく異なり、「どんなことでもウェルカム、気軽に相談において！」という風に言っていたいています。

(3) 今後の展望

島根県では多くの若者を主体とする地域活動団体があります。ですが、その団体だけで活動を活発に行うのは困難です。地域の中での繋がりや地域を越えた若者団体同士の繋がり、行政との繋がりを創っていきける環境にすることが、活動の継続・発展に必要なと感じます。また、これからの若者による活動は、あちこちに行くような全県的な活動よりも、それぞれの地域に密着した活動が求められると思います。自分の生まれた地域、住んでいる地域のような身近なところから地域を知り、活動することが未来の島根をより良く

する一番の近道だと考えます。

4. 終わりに

乃木公民館には「ひとごとからわがことへ ふれあい・ささえあい・たすけあいのまちづくり」という看板が掲げられています。KEYSの活動は自分以外の人たちのこと、「ひとごと」を「わがこと」として考えるところから始まります。「未来リユニオン」も「地域リーダー育成研修会」も中学校を卒業した自分には関係ないと思ってしまうからこそで終わってしまいます。地域社会の一員として、地域を「わがこと」として捉え、みんなが住みよいまちに向かって老いも若きもふれあい、支えあい、助け合う。そのような湖南中学校区を目指して、地域の方々から助けられながらKEYSはこれからも活動を続けます。



乃木公民館の看板